

- ・秋の夜長によい時期となりました。会員の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。
- ・さて我々、金澤町家継承・活用研究会の活動拠点となる2軒の町家が決定し、いよいよ本格的に今年度の活動がスタートします。
- ・今回は2軒の町家の紹介を含め、右記の内容で金澤町家だよりをお届けします。

目次

- 01 「町家活用モデル事業」を実施する
2軒の町家が決まりました
- 02 「町家活用モデル事業」の準備をしています
- 03 金澤町家での『体験宿泊』希望者を募集中です
- 04 研究会のホームページとブログを公開中です
- 05 先進地の視察に行ってきました

01 「町家活用モデル事業」を実施する2軒の町家が決まりました

- ・研究会の本年度の活動の大きな柱である「町家活用モデル事業」を行う町家が、「寺町の町家」(寺町2丁目地内)と「新町の町家」(尾張町2丁目地内)の2軒に決定しました。この2軒の町家を拠点として、2007年3月までの約半年間、様々な活動を行っていきますのでご期待ください。
- ・「寺町の町家」は大通り沿い(ファミリーマートさん隣)に位置する昭和初期の町家で、近所の方によると昔は茶碗屋さんを営んでいたそうです。1階の店ノ間は土間で、通り庭も一部は土間のまま残っており、一般的な町家の間取り構成となっています。
- ・「新町の町家」は、旧新町こまちなみ保存区域内に立地する町家で、明治21年に建築されたものです。建物の中に土蔵(内蔵)があり、室内で直接行き来できることが一番の特徴です。



【寺町の町家】



【寺町の町家】



【新町の町家】

02 「町家活用モデル事業」の準備をしています



- ・これまで使われていなかった町家は、長年の埃が溜まっていたり、構造的な傷みがあり補修が必要な部分があるなど、そのままではすぐに使えません。そこで研究会幹事、市内の大学生(金沢大学・金沢工業大学・金沢学院大学・金沢美術工芸大学)を中心に、職人の方にも協力していただき、「お掃除ワークショップ」、「障子張りワークショップ」と称して、町家を安心して使える状態にしました。
- ・ご協力いただいた職人の方々、本当にありがとうございました。

○町家の構造上のチェック、必要な改修などは職人さんの確かな目と腕で行いました

- ・ 構造的な安全性は大丈夫か、補修や改修の必要な箇所がないか、職人さんに確認していただきました。
- ・ 今後の町家活用モデル事業に備えて、必要な改修を適宜実施しました。



○お掃除ワークショップ、障子張りワークショップでは学生の皆さんが大活躍でした



お掃除ワークショップでは埃まみれになりながら長年の汚れを落としました。

障子張りワークショップで初めて障子張りを体験した学生も多かったのでは!?



○お掃除の合間には、職人さんに専門分野のお話をしていただきました



・「新町の町家」でのお掃除ワークショップでは、作業の合間に、大工さんや畳屋さんから、普段は聞けない専門的なお話をお聞きしました。

03 金澤町家での『体験宿泊』希望者を募集中です

- ・ 町家活用モデル事業のひとつとして「金澤町家体験宿泊」を企画しました。新町の町家に付属する土蔵（内蔵）に宿泊することで町家の空間を体験していただくというものです。
- ・ 土蔵を含んだ町家の持つ空間を感じ・体験していただくことで“懐かしい”あるいは“あたらしい”体験をしていただけるものと考えています。
- ・ ご興味のある方は是非、一度下記までお問い合わせ・ご相談ください。詳しい内容をお知らせいたします。



【宿泊場所となる内蔵】

【金澤町家での『体験宿泊』に関する問い合わせ先】

金澤町家継承・活用研究会 / 体験宿泊担当幹事：加藤 裕
〒920-0981

金沢市片町2-2-6 北国観光資源開発株式会社（内）

TEL 076-233-2901

FAX 076-233-2902

Eメール：komai@po3.nsknet.or.jp

04 研究会のホームページとブログ（日記風サイト）を公開中です



ホームページとブログのトップページ

- ・研究会では活動を報告するために、町家だよりの他にインターネット上にホームページとブログ（日記風サイト）を公開しています。
- ・町家だよりは編集作業の都合上、年4回の季刊発行となってしまう、研究会の活動をリアルタイムで皆さんにお伝えできないことがあります。
- ・ホームページとブログは、簡単に情報を更新することが可能なので、より早く研究会の「いま」をお伝えすることができます。
- ・特にブログでは、活動の開催お知らせや活動報告を随時行っていますので、ぜひ一度ご覧下さい。

ホームページURL：<http://webserv.ce.t.kanazawa-u.ac.jp/kawakami/machiya/index.html>

ブログURL：<http://machiyaen.exblog.jp/>

05 先進地の視察に行ってきました ～富山市岩瀬 / 第29回全国町並みゼミ八女福島大会～

- ・研究会では、今後のさらなる活動の充実や金澤町家の継承・活用への取り組みの参考にするため、有志の方に、町家をはじめとする古い建物や歴史的な町並みを活かしたまちづくりを行っている先進地への視察やシンポジウム・講演会への参加を積極的に行っています。
- ・去る9月30日には、富山市岩瀬大町・新川町通りへ、10月6～8日には福岡県八女市で行われた第29回全国町並みゼミ八女福島大会に参加してきましたので、ご報告します。



○富山市岩瀬大町・新川町通りの歴史的町並み見学会 H18.9.30（土）



- ・富山市岩瀬は神通川河口にある港町で、江戸期より明治期にかけて北前船貿易の廻船問屋で栄えた町です。明治6年の大火で町の大半が焼失しますが、廻船問屋を始めとした財力で復興し、「東岩瀬廻船問屋型」家屋と呼ばれる町家が町並みを形成しています。
- ・岩瀬の町家の特徴は、登り梁による深い軒の出、袖卯立、ムクリの付いたコケラ葺きの下屋庇、1階の格子に簾を組み合わせた「スムシコ」と呼ばれる建具の設置されていることなどです。

○第29回全国町並みゼミ八女福島大会 H18.10.6（金）～10.8（日）

- ・福岡県八女福島は近世初期の城下町を起源とし、その後は周辺地域の中心的な役割を担って発展した商家の町で、国の重要伝統的建造物群保存地区（町並み全体が文化財であるという考え方で、金沢ではひがしの茶屋街が該当します）に選定されています。
- ・八女福島の町家は、「居蔵」（妻入の入母屋大壁塗込造り）と呼ばれる土蔵造りの町家で、3～4間の梁間に小屋組を架け、両側に袖下屋を降ろす形式となっていることが特徴です。



○富山市岩瀬の見学会の感想 - 報告者：星名 啓（研究会会員） -

「空が広がった」見学会で訪れた富山市岩瀬の大町新川町通りは、電線類の地中化がなされていました。この言葉は北前船廻船問屋「森家」の案内をしてくれた地元のガイドの方の感想です。

見学会当日は快晴で、地元の方の言葉どおり、広い空の下でまちなみを存分に楽しむことができました。町家研見学会の参加者は10名。研究者、学生、職人、建築士、行政など本職は様々ですが、町家に対する思いの強さは共通だったと思います。それぞれ興味を持つ点がいりいろとあり、じっくりと時間をかけながら見学は進みました。

岩瀬の町家は、広い間口を持ち、二階の軒の出が一階より大きく、一階庇が板葺きとなっているのが特徴的で、非常に力強い印象であると同時に、細やかな装飾が施されるなど繊細な面も感じられました。出格子に「スムシコ」と呼ばれる簾状の格子がしつらえてある町家が多くみられました。高岡の山町筋の町家のような、建物前面を防火戸で覆うことができるタイプのものもありました。また、新しい建築においてもまちなみへの調和が意識されていました。



電線地中化により「空」が広くなり、LRT 開業によりいわば「道」も広くなり、岩瀬を訪れる「人」も幅広くなり、住民の方の意識が高まるとともに、まちの持つ力がどんどん強くなってきているように感じました。富山市による修景事業も引き続き行われるということで、これからのまちづくりも楽しみです。今後また岩瀬を訪ねてみたいと思います。今回残念ながら不参加だった方も、是非岩瀬のまちを歩いてみてください。

○第29回全国町並みゼミ八女福島大会に参加して - 報告者：本多義忠（研究会事務局） -

福岡県八女市で行われたNPO法人全国町並み保存連盟主催の全国町並みゼミは、重伝建地区を中心に全国58地区の代表・研究者等が集まる大会です。石川県ではNPO法人歴町センター大聖寺が連盟に加盟しています。私も初めての参加でしたのでとにかくたくさんの事を吸収して帰ろうと意気込んで参加しました。

大会は開会セレモニーから始まり基調講演・活動報告・交流会と進んで行きました。重伝建地区の話が中心かなと思っていたら、まちづくり的な活動報告がかなり多く私達の活動に通ずるものを感じました。NPO法人伊勢河崎まちづくり衆は、町の活性化の為に町並み・町家・空蔵をうまく活用したものでした。京町家情報センターは不動産から町家に迫った事例で金沢にも導入できるものと感じました。

二日目は、「空き町家等の保存活用と中心市街地の活力づくり」という分科会に出席しました。地元八女の「NPO八女町家再生応援団」は市役所職員が中心になり一つずつ空き町家を活性化していて、その取り組みに驚きました。また、「NPO法人鞆まちづくり工房」は、家主と利用者を独自に橋渡しして不動産の枠を超えた活動でした。

午後からは、町並み見学でした。八女は元は城下町であり金沢に似た街の形状を感じました。町家は、金沢のものとは形式が少し違い九州の気候・風土が色濃く反映しているようでした。

金沢に住んでいるとその町並みが当たり前と感じてしまいがちですが、ふと旅をして訪れた街と比較してみると金沢には町家がまだまだ存在している事を思います。その一つ一つの町家は、歴史・文化を住まう人と一緒に造って来たのだと思っています。姿だけでなく、そんな住文化も含めて継承・活用していける街にならないかと帰りの電車の中で思った「全国町並みゼミ」でした。



紙面の都合で2名の方の感想を、文脈に影響のない範囲で原文から一部割愛・変更させていただきましたことをご了承ください。なお原文は研究会のホームページにて公開しています。